

東三河支部

9月例会開催

- 日 時：令和3年9月21日（火）午後3時
- 場 所：豊橋商工会議所 9階 大ホール
(豊橋市花田町)
- 出席者：7名（リモート参加 15名）

東三河支部（鬼頭秀幸支部長）の9月例会は「脱炭素社会を推進・持続させるためのリサイクル戦略」と題して、加山興業（株）企画部部长 田島真一氏を講師としてお招きして勉強会を開催しました。



開会挨拶をする
鬼頭支部長

開会の挨拶で鬼頭支部長は「昨年加山興業さんにはSDGsに関して研修会をお願いしましたが、今回は脱炭素社会に向けての内容について勉強会の講師をお願い致しました。現在愛知県は緊急事態宣言下でもあることから、初めてのリモートを活用した例会を開催

しましたが、充実した例会となりますよう、よろしくお願ひ致します。」と述べました。

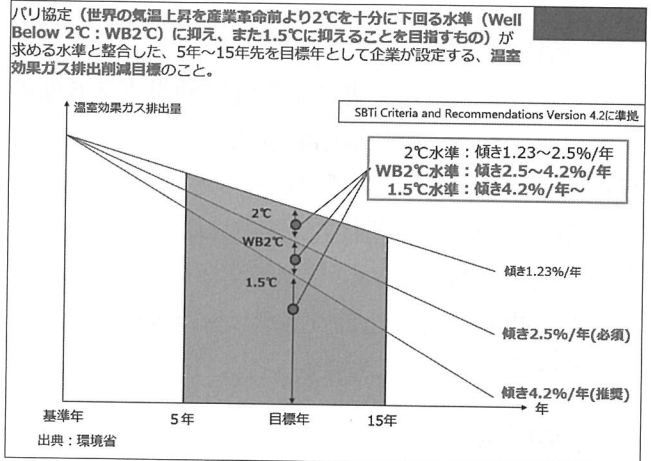
次に、柏原宏人研修指導委員長は「令和3年5月に地球温暖化対策の推進に関する法律が改正され、2030年目標のSDGsのゴールに向かう中、見えてくるものを検証し、私たち廃棄物処理業はどのように関わっていくのか、今回の勉強会で考えてみたいと思います。」と述べました。

勉強会は田島講師が登壇され、SDGsの概要等から始まり、ESG投資の考え方（財務情報+非財務情報（財務情報以外の情報：環境+社会+ガバナンス））及びSDGsとの関係において、社会的な課題解決が事業機会と投資機会を生むと考えられ、SDGsは共通言語として連携を強めることにより、新たな市場の獲得が可能となってくるとのことです。

また、SDGsに取り組む意義として、対外的発信が企業価値の向上に繋がり脱炭素の動きが加速している中、企業としてその対応を迫られる世界的な動き、具体的には「SBT（Science Based Targets）」について関心が高まっています。

「SBT」とは、パリ協定が求める水準と整合した、

5年～15年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標です。



実務的には事業活動を行う上で、自社を中心として上流過程と下流過程に分けた3つのScopeにおいて、どの部分でどれだけ二氧化碳が排出されているかを可視化、削減目標を設定後、具体的に温室効果ガス排出削減に取り組んでいきます。

現在世界の動向としてSBT認定取得企業は648社、コミット（2年以内にSBT認定を取得すると宣言すること）は642社、日本企業の認定取得は95社、コミットは29社、加山興業（株）は廃棄物処理業者として東海地方初の認定取得。

ポイント

- ① 顧客の脱炭素化に貢献できること
キーワード：EV化、環境への負荷の低い燃料や油種の利用
- ② 顧客の求める数値を提供できること
顧客の脱炭素化に対して定量的な数値を提供する！
- ③ SDGs（持続可能な開発目標）と整合した事業活動
例：自社のサプライチェーン上での人権問題への関与をなくす
例：化石燃料に頼らないエネルギーへのアクセス

講習後、質疑応答が行われ会員の方からの質問に対応され、謝辞を富田雅則副会長が述べ閉会となりました。

※ 加山興業（株）のSBTへの取り組みは、P12～13「資源循環レポート」にて詳細を掲載しています。